

資料7-1-1 袋井市の災害履歴

1 風水害の災害履歴

本市の風水害における大きな災害は以下のとおりである。

(1) 明治35年3月1日 竜巻による災害

12時10分頃湊にたつ巻が上陸、幅5,280mで北東に進み、全壊家屋49棟、半壊14棟、死者5人、負傷者23人の被害を出した。

(2) 明治40年9月17日～18日 台風による災害

小笠原諸島の南方海上に現われた台風は、北北西に進み17日夜遠州灘から進路を北東に転じて伊豆南端をかすめ、18日夜東京湾をへて金華山沖にぬけた。この台風の通過により各河川は増水し西部では宇刈川、原野谷川の増水が著しく、土地埋没及び流失、田畑の冠水などの被害があり、笠原村でも三沢川が氾濫した。

(3) 大正3年8月29日～30日 台風による災害

台風は小笠原諸島の西方海上を北北西に進み、29日夜浜松市付近に上陸、新潟地方を経て北海道根室方面へ去った。29日昼過ぎより暴風雨となり、浜松で最大風速ENE28.2m/sを記録、太田川の水位は約4.5m、天竜川では約5.5mであった。

太田川は、今井村深見、横井、向笠村篠原、岩井、田原村三ヶ野、明ヶ島、玉越で堤防が決壊し、逆川は笠西村愛野で、原野谷川は愛野、久努村広岡、田原村新池、袋井、敷地川は三川村川会、友永、小藪川は三川村見取、向笠村竹之内、笠梅及び向笠新屋において決壊し、耕地、人家の浸水など被害が発生した。

(4) 大正15年9月4日 台風による災害

グァム島方面で発生した台風は北西に進み、2日南大東島付近で転向し、4日10時前浜名湖付近に上陸、甲府、前橋を経て北東へ去った。浜松地方は4日早朝より暴風雨となり、浜松では10時15分ごろ最低気圧980hPa、最大風速S37m/sを観測した。雨量は県中部から西部にかけて多く、西部は被害が大きく家屋、樹木の倒壊、鉄道貨車の転覆、電信電話の不通、死傷者など多く出した。周智・磐田両郡の被害は、次のとおりである。

死者 5人、負傷者 52人、家屋の全壊 337戸、家屋の半壊 407戸、家屋一部破損 5,850戸
非住家 1,501棟、道路の不通 47箇所、橋梁 14箇所等

(5) 昭和25年6月9日～14日 梅雨前線、低気圧による災害

9日～14日にかけて奥羽地方南部より静岡県を通る梅雨前線が活発となり、また13日から14日にかけて南海上を低気圧が東進した。白糸、瀬戸谷、三倉、田沢の山ぞい地方で連日100mm前後の雨が降り、8日からの総雨量は450mm以上に達した。各河川の水位は大井川2.5m、水窪川3m、天竜川は鹿島付近で13日午後8時現在6.5mの最高水位を記録した。

敷地川では橋が流失し、原野谷川でも堤防が決壊し、袋井では床上浸水50戸、神長付近でも小笠沢川の堤防が決壊があった。

(6) 昭和26年7月1日～2日 台風第6号による災害

南西諸島から九州の東を通り、四国へ上陸した台風は、2日4時ごろには980hPaの熱帯性低気圧となり、名古屋付近へ接近したころは、衰えて995hPaとなり、2日静岡県を通過して房総沖へ向った。静岡県の風は全般に弱かったが、雨量は北部山間部で多く150mmを越えた所があった。

太田川が氾濫し、周智郡南部の森、園田、飯田、山梨、宇刈の各町村では、田畑冠水6,000ha、床下浸水40戸を出した。

(7) 昭和26年10月13日～16日 台風第15号による災害

台風により御前崎で最大風速23.5m/sを記録し、このため波が高く弁財天川の水門を越え逆流して田畑への被害を出した。

(8) 昭和27年7月10日～15日 熱帯性低気圧、梅雨前線による災害

梅雨前線が太平洋岸に停滞し、熱帯性低気圧が南西諸島から九州に接近して、10日ごろから前線活動が活発となった。9日ごろから局地的に雨が強く降り、10日～16日の雨量は富士川、安倍川、大井川の上流、中流地域で400mmを観測した。

周智郡森町天ノ宮で太田川の堤防が決壊し、三川村では敷地川の決壊により床下浸水11戸、耕地の冠水470haであった。

(9) 昭和28年9月25日～26日 台風第13号による災害

台風により御前崎で最大風速31.6m/sを記録し、海岸での波が高く、弁財天川の水門を越え、海水が田173haに浸水した。

(10) 昭和34年8月26日～27日 低気圧、温暖前線による災害

日本海西部に発生した低気圧は、ゆっくり東に進み26日には日本海中部に達した。低気圧から南にのびた温暖前線は、中部地方を通り三陸沖の冷たい高気圧にはばまれて停滞した。26日朝から聚雨性の雨が降り出し、昼ごろから夜にかけて各地で雷が起り、局地的な豪雨となった。

太田川上流の敷地川、一宮川が袋井市三川で氾濫し、磐田市三ヶ野、明ヶ島、新貝の各橋が流失し、原野谷川、敷地川でも3～4箇所の橋の流失があり、中沢川でも幕ヶ谷橋の流失があった。

床上浸水26戸、床下浸水40戸であり、冠水した田は270haであった。

(11) 昭和34年9月26日 台風第15号(伊勢湾台風)

台風は硫黄島西方海上で第1級の台風に発達し、北北西から北に進み26日午後6時30分ごろ紀伊半島南部に上陸した。この時の中心気圧は929.5hPaであったが、上陸後もあまり勢力が衰えず、岐阜付近を通り高田の西方を経て秋田沖へ去った。26日夕刻ごろから風雨が強まり、最大風速は御前崎SSW35.6m/s・石廊崎SW29.2m/s・浜松SSW26.4m/sを観測し、所々に突風が発生した。雨は26日午後4時から12時にかけて強く降り、山岳方面で1時間降雨量は、30～35mmに達し、大井川、天竜川中流域で200～350mm、また台風の最も接近した時刻が満潮時と一致したため、海岸では高潮や高波が起こった。家の全半壊や浸水、田畑の冠水、道路の決壊など各地に被害があり、特に県西部に多かった。

袋井市の被害 家屋半壊－2棟、家屋全壊－3棟等

(12) 昭和49年7月7日～8日 台風第8号及び梅雨前線による災害(七夕豪雨)

沖の鳥島付近の海上で発生した台風8号は次第に北上して、4日には沖縄の西方海上で中心気圧945hPaに発達し大型台風となり、7日には中心気圧985hPaとなって日本海へ入った。その後、台風8号の東進と共に今まで停滞していた強い雨雲もゆっくり東進を始め、7日15:00ごろには西部地方に達し豪雨が始まった。この強い雨雲域の通過には7時間～10時間を要し、天竜－静岡－三島を結ぶ経路をとったため、この線上の各地では記録的な豪雨となった。8日8:00ごろには一応降雨の終息をみたが、この集中豪雨により延久・横井で太田川が決壊し、多くの被害を受け、災害救助法が適用された。

袋井市の被害 住家の全壊6戸、半壊11戸、床上浸水103戸、床下浸水180戸、その他田畑の埋没、河川崩壊等

(13) 昭和57年9月11日～13日 台風第18号及び前線による災害

グアム島付近で発生した台風18号は、大型で並の勢力(968hpa)を保ちながら、12日18時に御前崎西方へ上陸し、東日本を横断した。本州南岸沿いに停滞していた前線が、台風の接近に伴い活発化し11日夜半から12日午前にかけて県下到大雨を降らせた。牧之原では12日16時から17時の1時間に91mmの豪雨が降った。降り始めからの総雨量は、天城山676mm、牧之原628mm、掛川504mm、御前崎459mmを観測し、掛川市を含む県下6市3町に災害救助法が適用された。

袋井市の被害 床上浸水10戸、床下浸水115戸等

(14) 平成10年9月23日～24日 前線による災害

9月23日、台風7号は北海道の東海上で温帯低気圧になって東に進み、低気圧から伸びる前線が本州南岸から四国沖に伸びた。23日夜から本州南岸に伸びる前線の活動が活発となり、24日早朝にかけて東海地方や紀伊半島南部で強い雨が降り、静岡県や紀伊半島南部では1時間に50mm～80mmの激しい雨を観測し、静岡県福田町では、23日20時から23時までの3時間に177mmの降水量を観測した。

袋井市においても総降水量211mm、時間最大雨量55mm(23日23時～24時)を観測した。

袋井市の被害 床上浸水20戸、床下浸水80戸等

(15) 平成16年11月11日～12日 集中豪雨

梅雨前線による集中豪雨で、11日午後6時頃から降り始めた雨は、11日午後10時から12日午前2時までの4時間に220mmの豪雨となった。11日午後10時から午後11時の時間雨量は、袋井市雨量観測過去最大の76mmの記録的豪雨となり、3世帯9人が自主避難した。

袋井市の被害 床上浸水37戸(住家18戸、非住家19戸)、床下浸水175戸(住家131戸、非住家44戸)等

(16) 平成19年2月14日 突風による災害

2月14日、日本海で発達した低気圧の影響で、県内では午後から風雨が強まり大荒れの天気となった。低気圧が発達しながら日本海を北上して強風が吹き荒れ、14日午後6時頃から低気圧から延びた寒冷前線が静岡県を通過した。この前線は、部分的に積乱雲を含んでおり、突風が発生した時間帯には、そのうちの一つの積乱雲が通過中であった。

諸井、浅羽、浅岡地区で発生した突風により、屋根の破損や屋根瓦の落下・窓ガラスの破損などの被害が発生した。

被害の範囲：2,500m×210m（特に被害が集中している区域 1,200m×210m）

最大瞬間風速：浅羽支所 26.9m/s（2月14日午後6時10分～午後6時20分の間）

人的被害：5人

物的被害：全壊3棟、半壊3棟、一部損壊156棟、農業施設23棟ほか

(17) 平成20年3月14日 突風による災害

3月14日、日本海中部に前線を伴った低気圧があつて東北東に進んでいた。この低気圧に向かって南海上から湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となっていた。静岡県内には昼過ぎから雷を伴った活発な積乱雲がかかり、袋井市で突風が発生した時間帯（午後2時45分頃）には、活発な積乱雲が被害地域付近を通過していた。

川井、袋井地区ほかで発生した突風により、住宅の屋根が剥がれる、屋根瓦が飛散するなどの被害が発生した。

被害の範囲：東西約1,000m×南北約300m（被害が特に集中している地域）

最大瞬間風速：袋井市役所 26.1m/s（3月14日午後2時40分～午後2時50分の間）

人的被害：なし 物的被害：全壊3棟、半壊なし、一部損壊147棟、農業施設4棟ほか

(18) 平成23年9月21日 台風第15号による災害

9月13日午後9時に日本の南海上で発生した台風第15号は、21日午後2時頃に静岡県浜松市付近に上陸し、強い勢力を保ったまま東海地方から関東地方、そして東北地方を北東に進んだ。台風は、その後21日夜遅くに福島県沖に進み、22日午後3時に千島近海で温帯低気圧に変わった。

台風第15号が、南大東島の西海上にしばらく留まり、湿った空気が長時間にわたって本州に流れ込んだことと、上陸後も強い勢力を保ちながら北東に進んだことにより、西日本から北日本にかけての広い範囲で、暴風や記録的な大雨となった。

市内の気象状況

観測場所	累計雨量 (観測時間)	時間最大雨量 (観測時間)	最大瞬間風速 (観測時間)
袋井市役所	75.0mm (9:10~16:10)	23.5mm (13:00~14:00)	45.0m/s (13:20)
浅羽支所	69.0mm (9:10~16:10)	16.5mm (11:00~12:00)	44.5m/s (14:20)
山名小	95.5mm (9:10~15:10)	33.0mm (13:00~14:00)	—
三川小	81.0mm (9:10~15:40)	25.0mm (13:00~14:00)	—

※停電により山名小（午後3時10分以降）、三川小（午後3時40分以降）観測不能となる。

人的被害：12人（重傷3人、中等傷2人、軽傷7人）

物的被害：全壊なし、半壊・一部損壊 多数ほか

床上浸水：1戸

(19) 平成24年6月19日 台風第4号による災害

6月13日にフィリピンの東海上で発生した台風第4号は、19日17時過ぎに、中心気圧960hPa、最大風速35m/sの強い勢力で和歌山県南部に上陸し、同日20時過ぎに愛知県東部に再上陸した。さらに、東海地方から関東甲信地方、そして東北地方を通過し、20日明け方に三陸沖へ進み、同日9時に温帯低気圧に変わった。

市内においても、大雨、暴風による被害とともに、広範囲にわたって長時間の停電も発生した。

人的被害：なし 物的被害：住家の一部損壊93件、床下浸水2件

(20) 平成24年8月14日 大雨による災害

8月13日停滞前線が朝鮮半島から日本海を経て東北地方に達し、前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、西日本から東北地方の広い範囲で大気の状態が非常に不安定となり、局地的に非常に激しい雨が降った。14日は停滞前線が本州付近をゆっくりと南下し、近畿地方や東海地方では局地的に猛烈な雨を観測するなど、西日本から東北地方の広い範囲で大雨となった。

市内においては、沖之川高塚橋周辺で内水被害が発生したため、同日午前9時に、村松西、村松下及び久津部西自治会547世帯を対象に避難勧告を発令し、避難所（袋井東幼稚園）を開設した。また、市内20路線の道路冠水、22件の土砂崩れ、倒木などの被害が発生するとともに、市内広範囲にわたって長時間の停電も発生した。

市内の気象状況

観測場所	累計雨量 (観測時間)	時間最大雨量 (観測時間)
袋井市役所	260.0mm (1:00～9:40、22:40～翌日7:50)	57.5mm (2:00～3:00)
浅羽支所	166.5mm (1:40～9:40、23:20～翌日7:50)	36.0mm (3:30～4:30)
山名小	237.0mm (0:50～8:20、22:30～翌日7:50)	75.0mm (7:20～8:20)
三川小	206.0mm (0:40～9:50、22:20～翌日8:20)	69.5mm (1:10～2:10)

人的被害：なし 物的被害：床上浸水5件、床下浸水26件

(21) 平成24年9月30日 台風第17号による災害

9月21日にフィリピンの東海上で発生した台風第17号は、大型で非常に強い勢力を保ったまま30日には四国の南へ進み、和歌山県潮岬付近を通過して、同日19時頃愛知県東部に上陸し、関東甲信地方、東北地方を通過して、10月1日昼頃には北海道東方海上に達した。この台風により、非常に激しい雨が降り猛烈な風が吹いた。

また、海上は猛烈なしけとなり、沿岸では高潮が発生した。

市内においても、大雨、暴風による被害とともに、広範囲にわたって長時間の停電も発生した。また、農作物の塩被害も発生した。

人的被害：なし 物的被害：住家の一部損壊1件、軽微破損49件

(22) 平成24年10月23日 突風による災害

10月23日9時には、日本海北部に前線を伴った発達中の低気圧があつて東北東に進んでおり、この低気圧からのびる寒冷前線が本州を通過していた。この低気圧や前線に向かって、南から暖かく湿った空気が流れ込み、北日本から西日本にかけては大気の状態が非常に不安定となっていた。

9時30分頃に袋井市岡崎から山崎にかけて突風が発生し、住家の屋根瓦のめくれや非住家の屋根の飛散など被害が発生した。突風が発生した時間帯には、活発な積乱雲が被害地付近を通過中であった。

静岡地方気象台は、この突風をもたらした現象を、竜巻と推定し、竜巻の強さは藤田スケールでF0と推定した。

被害の範囲：長さは約1km、幅は約100m（被害が特に集中している地域）

最大瞬間風速：浅羽支所 10.6m/s(午前9時30分、南南西)

人的被害：なし 物的被害：全壊なし、半壊なし、住家の一部損壊15件、非住家7件ほか

(23) 平成26年10月6日 台風第18号による災害

9月29日15時にトラック諸島近海で発生した台風第18号は、発達しながら日本の南海上を北上し、その後、進路を東寄りに変え、大型で強い勢力を維持したまま潮岬の南を通過して、10月6日8時過ぎに静岡県浜松市付近に上陸した。台風は速度を速めながら東海地方及び関東地方を北東に進み、6日21時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。

台風と本州付近に停滞した前線の影響で、東日本太平洋側を中心に大雨となった。

市内においても、暴風及び大雨による床上床下浸水や、橋脚流出、法面崩壊、農作物の被害が発生した。

市内の気象状況

観測場所	累計雨量 (観測時間)	時間最大雨量 (観測時間)	最大瞬間風速 (観測時間)
袋井市役所	319.5mm (5日1:50~6日9:00)	56.5mm (6日6:00~7:00)	30.5m/s (6日7:30)
浅羽支所	233.5mm (5日1:30~6日9:20)	34.0mm (6日5:40~6:40)	33.8m/s (6日7:30)
山名小	337.0mm (5日2:00~6日8:40)	63.0mm (6日6:30~7:30)	—
三川小	291.5mm (5日1:40~6日8:50)	58.5mm (6日6:40~7:40)	—

人的被害：なし

物的被害：一部損壊10件、床上浸水5件、床下浸水24件、橋脚流出1件、農業施設38件ほか

(24) 平成30年9月30日～10月1日 台風第24号による災害

9月21日15時にマリアナ諸島近海で発生した台風第18号は、25日0時には猛烈な勢力に発達し、フィリピンの東の海上で速度を落としつつ北上し、29日には南西諸島に最接近した。台風は久米島付近で北東に転向し、30日20時頃に中心気圧960hPa・最大風速40m/sの大型で強い勢力で和歌山県田辺市付近に上陸した。台風は上陸後さらに速度を速め、10月1日9時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。

台風の接近により南西諸島や東日本の太平洋側を中心に記録的な暴風となった。

市内においても、暴風により市内のほぼ全域が停電するなどの被害が発生した。

人的被害：なし

停電被害：最大 36,800戸（10月5日までに復旧）

(25) 令和3年7月1日～7月7日 大雨による災害

6月末から梅雨前線が北上し、西日本から東日本に停滞した。前線に向かって暖かく湿った空気が次々と流れ込み、大気の状態が非常に不安定となったため、東海地方から関東地方南部を中心に記録的な大雨となった。

数日間にわたって断続的に雨が降り続き、静岡県複数の地点で72時間降水量の観測史上1位の値（周智郡森町・三倉（534.5mm））を更新するなど、記録的な大雨となった。

この大雨により静岡県熱海市で土石流災害が発生したほか、河川の増水や低地の浸水が発生した。

市内においては、令和3年7月2日午前8時頃、三川地区萱間地内にて土砂崩れが発生した（急傾斜地西側で高さ10m、幅10mほどの範囲で土砂が崩落）。待ち受け式擁壁により土砂を補足しており、人的被害及び建物被害はなかったが、東側斜面の上部に約20メートルの亀裂が入り、不安定な状態で、土砂崩れの危険があったため、令和3年7月2日 午前10時35分、9世帯27人へ、警戒レベル4「避難指示」を発令。対象者は萱間公会堂、三川コミュニティセンター、親戚宅等へ避難した。その後、袋井土木事務所が、危険箇所の不安定な土砂を取り除き、家屋への土砂流出の危険性が低くなったため、7月7日午後3時30分に警戒レベル4「避難指示」を解除した。

(26) 令和4年9月23日～24日 台風第15号による災害

9月23日夜のはじめ頃から24日明け方にかけて、台風第15号の影響により、静岡県では中部、西部、東部で猛烈な雨が降り、記録的短時間大雨情報が16回発表されるなど記録的な大雨となった。市内では、市内河川から越水を確認したため、同日午後10時に市内全域に警戒レベル4「避難指示」を発令。午後11時45分に、敷地川（笠梅橋）の水位が氾濫危険水位に達したため、三川・今井地区に警戒レベル5「緊急安全確保」を発令した。翌日24日午前5時30分、市内の河川水位が氾濫危険水位を下回ったため三川・今井地区の警戒レベル5「緊急安全確保」を警戒レベル4「避難指示」に引き下げた。同日午前10時45分、市内河川水位が低下したため、市内全域に発令していた警戒レベル4「避難指示」を解除した。

本災害による被害について、袋井市を含む県内23市町に災害救助法が適用された。

市内気象情報

観測場所	累計雨量 (観測時間)	時間最大雨量 (観測時間)	最大瞬間風速 (観測時間)
袋井市役所	256.5mm (9/23 03:29～9/24 01:52)	62.5mm (9/23 20:00～21:00)	9/23 22:49 南南西15.0m/S
浅羽支所	230.5mm (9/23 03:21～9/24 01:55)	67.5mm (9/23 20:00～21:00)	9/23 22:12 南南東17.7m/S
山名小	319.0mm (9/22 21:00～9/24 00:42)	66.5mm (9/23 21:00～22:00)	
三川小	321.5mm (9/22 21:06～9/24 00:45)	72.5mm (9/23 22:00～23:00)	

人的被害：死者1人

物的被害：住家（床上浸水）102件、（床下浸水）150件（土砂崩れ等）6件

非住家（床上浸水）69件、（床下浸水）14件（土砂崩れ等）4件

主な被害地区は三川地区、宇刈地区、袋井東地区、高南地区

土砂崩れ：43箇所（水道施設用地1箇所・可睡斎瑞龍閣法面1箇所、など含む）

主な被害地区は三川地区、宇刈地区、笠原地区

橋梁流失：3箇所 洞広橋（袋井市山田）、岡野橋（袋井市方丈～愛野・通称もぐり橋）

※新屋橋（磐田市新屋～袋井市太田・磐田市管理）

(27) 令和5年6月2日～3日 台風第2号及び前線による大雨に関する災害

6月1日から3日にかけて、本州付近にある梅雨前線に向かって台風第2号からの非常に暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、静岡県の広い範囲で非常に激しい雨が降り、線状降水帯が断続的に発生するなど記録的な大雨となった。市内では、台風第2号の接近に伴い、同日午後3時に市内全域に警戒レベル3「高齢者等避難」を、同日午後4時15分に警戒レベル4「避難指示」を発令した。午後7時10分、市内の敷地川、大谷川、秋田川が越水・浸水の可能性があるため、三川地区、今井地区、村松地区、高南地区に警戒レベル5「緊急安全確保」を発令した。翌日午前7時10分、市内の敷地川、大谷川、秋田川の水位が低下したため、三川地区、今井地区、村松地区、高南地区の警戒レベル5「緊急安全確保」を解除し、警戒レベル4「避難指示」に変更。同日午前9時15分、今後の降雨が見込まれず、市内河川水位が低下したため、市内全域に発令していた警戒レベル4「避難指示」を解除した。

市内気象情報

観測場所	累計雨量 (観測時間)	時間最大雨量 (観測時間)	最大瞬間風速 (観測時間)
袋井市役所	286.0mm (6/1 23:15～6/3 02:37)	54.5mm (6/2 16:00～17:00)	6/2 08:21 南南西21.1m/S
浅羽支所	213.0mm (6/1 23:35～6/3 02:37)	35.5mm (6/2 16:00～17:00)	6/2 08:23 南南西19.2m/S
山名小	320.0mm (6/1 23:25～6/3 02:54)	52.5mm (6/2 16:00～17:00)	
三川小	349.0mm (6/1 23:23～6/3 03:02)	52.5mm (6/2 16:00～17:00)	

人的被害：なし

物的被害：住家（床上浸水）1件、（床下浸水）14件

非住家（床上浸水）2件、（床下浸水）3件

主な被害地区は三川地区、袋井東地区

2 地震による災害履歴

- (1) 宝永地震 1707年(宝永4年)10月28日 M=8.4 震央=五畿七道
全県下に被害が生じた。沿岸に大津波、東海道沿いで震度6、袋井・掛川は震度7
- (2) 安政東海地震 1854年(安政元年)12月23日 M=8.4 震央=東海・東山・南海
県下全域に被害が生じた。御前崎を中心に隆起、沿岸一帯に津波、又低地で液状化現象が各地で見られた。特に掛川、袋井付近の東海道沿いの被害が大きかった。
- (3) 東南海地震 1944年(昭和19年)12月7日 M=7.9 震央=東海沖
県中・西部に被害が大きかった。遠州灘で津波の高さ1~2m、太田川流域の住家被害率が高く、本市では今井地区(旧今井村)で97%を始め、市内全域で被害があった。

東南海地震による被害状況(大庭正八先生資料参照)

(単位:人、棟)

被害種別			笠原村	宇刈村	山梨町	久努西村	久努村	袋井町	三川村	今井村	田原村	上浅羽村	東浅羽村	西浅羽村	幸浦村	計
人的被害	死者		0	2	22	8	4	64	12	7	3	8	1	6	6	143
被害	住家	全壊	8	29	95	182	180	575	86	322	102	218	79	134	99	2,109
		半壊	1	59	165	31	160	142	50	14	22	88	37	141	32	942
	非住家	全壊		71	84	200	154	422	105	305	72	142	54	120	29	1,758
		半壊		78	127	55	133	153	89	31	78	94	60	121	49	1,068

- (4) 駿河湾を震源とする地震 2009年(平成21年)8月11日(火)午前5時7分 M=6.5 震央=駿河湾沖(御前崎の北東約35km付近)深さ23km 袋井市の震度 震度5強(浅羽支所)、震度5弱(袋井市役所)
人的被害:1人(軽傷) 物的被害:一部損害 住家被害(瓦の落下等) 123件、公会堂被害 2件、公共施設被害 6件、その他の被害(電柱傾き、ブロック塀破損、神社灯籠の倒れなど) 26件
- (5) 令和6年 能登半島地震 2024年(令和6年)1月1日(月・祝)午後4時10分
M=7.4 震央=石川県能登地方(輪島の東北東30km付近)
袋井市の震度 震度4(浅羽支所) 震度3(袋井市役所)
人的・物的被害 なし